

令和5年の病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課防疫対策室
農産安全管理課農薬対策室

令和6年の病害虫防除シーズンに向けて、令和5年の天候経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、令和5年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、表-2に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

1 令和4年冬（令和4年12月～令和5年2月）の特徴

（1）冬の平均気温は、寒気の影響を受ける時期があった北日本で低かった一方、暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美では高くなった。

（2）冬型の気圧配置が強まる時期があったため、東日本日本海側の冬の降水量は多くなった。一方、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側の冬の降水量は少なくなった。

（3）高気圧に覆われやすい時期があったため、西日本日本海側と西日本太平洋側の冬の日照時間は多くなった。

2 令和5年春（令和5年3月～令和5年5月）の特徴

（1）寒気の影響を受けにくく、暖かい空気に覆われやすかったため、春の平均気温は全国的に高く、特に北・東・西日本でかなり高くなった。北・東日本では1946年の統計開始以降、春として1位の高温となった。

（2）低気圧や前線の影響でまとまった雨が降った日があったため、春の降水量は西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側で多くなった。一方、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、春の降水量は沖縄・奄美で少なくなった。

（3）高気圧に覆われやすかったため、春の日照時間

は全国的に多く、特に北・東日本日本海側でかなり多くなった。東日本日本海側では1946年の統計開始以降、春として1位タイの多照となった。

3 令和5年夏（令和5年6月～令和5年8月）の特徴

（1）北日本を中心に暖かい空気に覆われやすく、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、夏の平均気温は北・東・西日本でかなり高くなった。1946年の統計開始以降、夏として北日本と東日本で1位、西日本で1位タイの高温となった。また、1898年の統計開始以降で最も高かった2010年を大きく上回り、夏として最も高くなった。

（2）梅雨前線や台風第6号、第7号などの影響を受けたため、夏の降水量は東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で多くなった。一方、高気圧に覆われやすく晴れた日が多かった北日本太平洋側で少なくなった。

（3）高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったため、夏の日照時間は北・東日本日本海側と北・東日本太平洋側でかなり多くなった。一方、8月上旬に台風第6号の影響を受けた沖縄・奄美で少なくなった。

4 令和5年秋（令和5年9月～令和5年10月）の特徴

（1）気温については、9月は暖かい空気に覆われるとともに、南から暖かい空気が流れ込みやすい時期があったため、全国的に気温がかなり高く、1946年の統計開始以降で9月として東・西日本では1位の記録的な高温となった。10月は日本近海の海面水温が顕著に高かった影響や、寒気の影響が一時的だった北日本でかなり高く、暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美で高くなった。

（2）降水量については、9月は前線や低気圧の影響を受けにくかったため、西日本太平洋側では降水量がかなり少なくなった。10月は低気圧の影響を受けにくかった西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、西日本太平洋側で少なくなった。一方、低気圧や低気圧通過後の寒気の影響を受けやすかった北・東日本日本海側で多くなった。

Occurrence of Pests and their Control in 2023 in Japan. By Plant Protection Division and Plant Products Safety Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：令和5年、病害虫、発生動向、農業、出荷状況）